様式2

都市再生整備計画　事後評価シート（案）

熊谷市中心市街地地区（第２期）

埼玉県熊谷市

様式2－1　評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県	市町村名	熊谷市	地区名	熊谷市中心市街地地区（第2期）			面積	113ha
交付期間	平成29年度～令和3年度	事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	779百万円	国費率	0.4		

1）事業の実施状況

			事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	・道路事業（市役所通線自転車通行環境整備事業） ・地域生活基盤施設（歩行者案内施設整備事業、熊谷駅正面口駅前広場案内施設整備事業） ・高質空間形成施設（市道80039号線自転車通行環境整備事業、市道80007号線自転車通行環境整備事業、市道50359号線自転車通行環境整備事業、市道80541号線バリアフリー整備事業、熊谷駅正面口駅前広場歩行支援施設整備事業、連絡歩道橋歩行支援施設整備事業、熊谷駅南口駅前広場公衆用トイレ障害者誘導施設整備事業）		
		提案事業	「景観とおもてなし」事業		
当初計画から削除した事業		基幹事業	熊谷駅東口周辺歩道整備事業	当計画で実施した事業により周辺交通の流れが変化し、事業内容の見直しが必要になったため	歩行者・自転車通行環境の満足度を下方修正
		基幹事業	歴史・文化資源ネットワーク整備事業	より効果的なネットワークの構築を目指し、事業内容を再検討することとなったため	歩行者・自転車通行環境の満足度を下方修正
		提案事業	―	―	―
新たに追加した事業		基幹事業	―	―	―
		提案事業	―	―	―
交付期間の変更	当　初		―	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	なし
	変　更		―		

2）目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値 基準年度	従前値	目標値 目標年度	目標値	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	歩行者・自転車通行環境の満足度	%	H21	55	R3	62		56	△	あり	―	目標値には届かなかったが、従前値と比較して上昇している。 自転車通行環境整備事業や歩行支援施設整備事業等の道路環境の改善については精力的に行った結果、満足度向上につながったことがうかがえる。	―
										なし	●		
指標2	歩行者・自転車通行量	人	H27	18,830	R4	25,000		11,375 ※（18,170～26,149）	△	あり	―	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、目標値に対して大きく下回った。 新型コロナウイルス感染症の影響について、補正値を考慮した場合、本来の交通量は従前値と同程度から微増していたと考えられる。 自転車通行環境整備事業等を行っているが、自転車利用者は歩行者に比べ、走行空間に対して安全であると回答している割合が低い。 ※（）内の数値は、コロナ禍の影響を鑑み実測値を基に、アンケート調査による外出頻度を考慮し補正したもの。	―
										なし	●		
指標3													―

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値 基準年度	従前値	目標値 目標年度	目標値	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	―	―	―	―				―			―	―

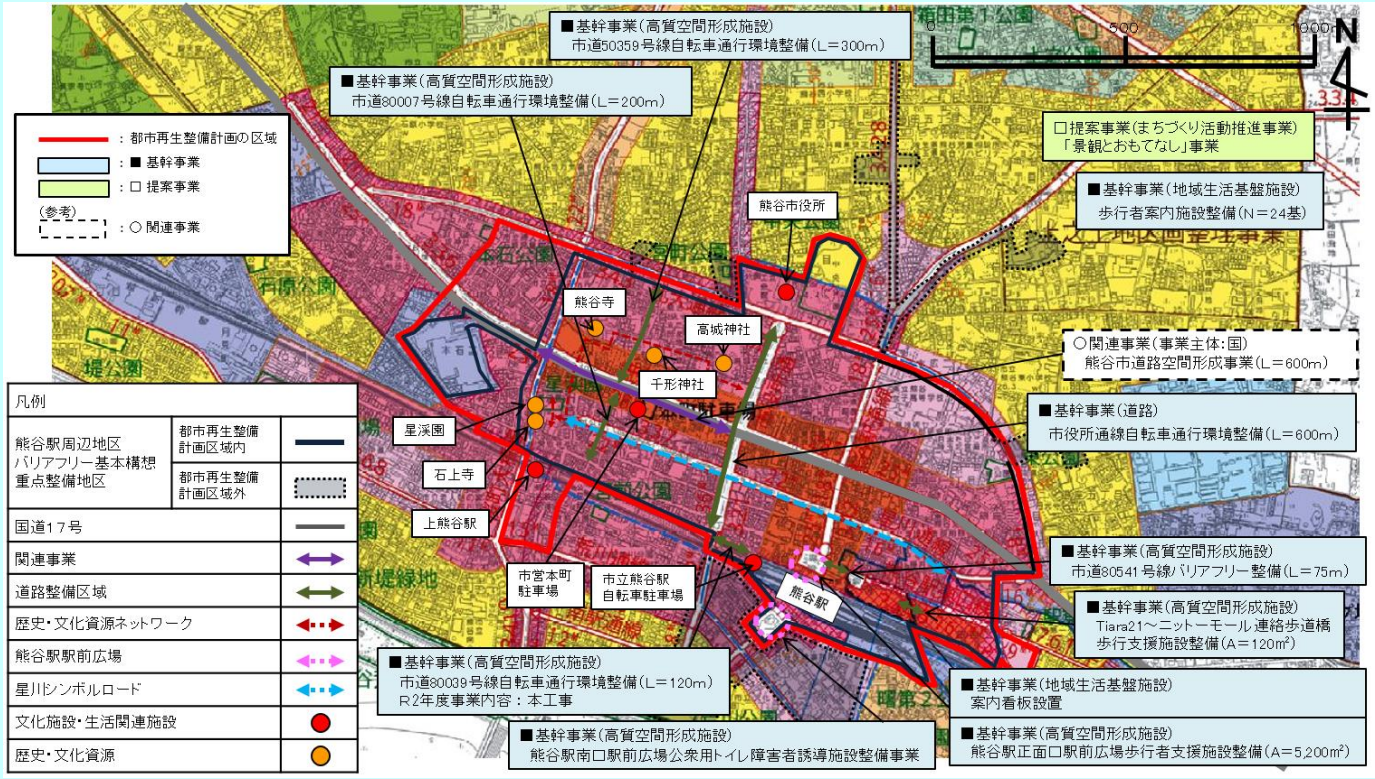
目標達成度の記入方法
○：評価値が目標値を上回った場合
△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

4）定性的な効果 発現状況	―				
5）実施過程の評価		実施内容	実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	―	都市再生整備計画に記載し、実施できた	―	―
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	―	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	―	
	官民連携による取組	(1) ラグビーワールドカップ2019™熊谷開催に係る気運を高めるため、大型ポスターやバナーフラッグなどで街中を飾り立てるシティドレッシングを実施した。 (2) 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に関するまちづくりを考えるワークショップを実施した。 (3) 民間事業者が官民連携エリアプラットフォームを設立した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	―	(1) 商店街を中心とした街の一体感の醸成につながったことから、今後もバナーフラッグの設置を行う。 (2) まちづくりのワークショップは市民と協働する手法として有効であるため、今後も開催を検討する。 (3) 官民連携の取組を継続する。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	―	
	持続的なまちづくり 体制の構築	(1) ラグビーワールドカップ2019™熊谷開催に係るインバウンドへの対応のため、まちなかで使用可能なWi-Fiの設置を行った。 (2) 空き店舗等活用の事業運営を支援し、活用の促進を図った。 (3) 街中・モビリティ・スポーツの各情報を連携させた行動変容アプリを開発し、回遊性の向上を図った。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	―	(1) 継続して事業を実施し、交流人口の増加を図る。 (2) 継続して事業を実施し、地域商業の活性化と市民の暮らしやすさの向上を図る。 (3) ビフォースポーツ及びアフタースポーツのまちづくりに活用し、交流人口や関係人口の増大を図る。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	―	

様式2－2　地区の概要

熊谷市中心市街地地区（第2期）（埼玉県熊谷市）　都市再生整備計画事業等の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値　※（）内は補正した値	
大目標　埼玉県北部地域の中核都市として環境にやさしく、暮らしやすく、魅力ある中心市街地を目指す 目標1　道路環境の改善等により、誰でも安全・快適に移動できる道路環境・交通体系を構築し、交通利便性の高い都市環境を目指す 目標2　生活関連施設や歴史・文化資源等を結ぶ歩行者及び自転車のネットワークを構築し、中心市街地の交流人口の増加とにぎわい再生を目指す	歩行者・自転車通行環境の満足度	単位：%	55	H21	62	R3	56	R4
	歩行者・自転車通行量	単位：人	18,830	H27	25,000	R4	11,375 （18,170～26,149）	R4





熊谷駅正面口駅前広場歩行者支援施設整備



歩行者案内施設整備



熊谷駅南口駅前広場公衆用トイレ
障害者誘導施設整備事業

まちの課題の変化	・市民アンケート結果から、整備が進捗し満足度が向上したものの目標未達であることから、歩行者や自転車利用者が安心して利用できる道路空間の整備を継続して行う必要がある。 ・中心市街地地区内のバリアフリー整備や自転車通行環境整備が進み回遊性が向上した。今後は賑わいの創出に資する居心地の良い空間づくりを推進し、中心市街地地区の通行量を増やす必要がある。 ・都市再生整備計画以外の事業においても、まちづくりの課題解決に資する事業が実施され一定の効果を上げており、特に商店街を中心としたシティドレッシングや空き家・空き店舗に対する施策における官民連携の取組や、まちづくりを考えるワークショップの実施等を通じた市民協働がまちの課題の解決や再認識に重要であることなどを改めて認識した。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	本計画では、埼玉県北部地域の中核都市として環境にやさしく、暮らしやすく、魅力ある中心市街地を目指し、歩行者・自転車利用者の通行環境の改善や駅周辺施設の整備、市民活動の支援となるハードに係る施策を遂行した。今後のまちづくりでは、本計画において実施した事業を活用し、官民連携の体制構築を推進することで、以下の3項目を柱に、さらなる進展を図る。 ・歩行者・自転車利用者の満足度を上げるため、引き続き、歩行者・自転車通行空間の改善に資する事業に取り組む。 ・中心市街地利用者増加を図るための施設集約とともに、交流イベント等の施設活用に取り組む。 ・まちの賑わいを創出させるため、民間事業者と行政が連携し、居心地の良い空間整備を進める。